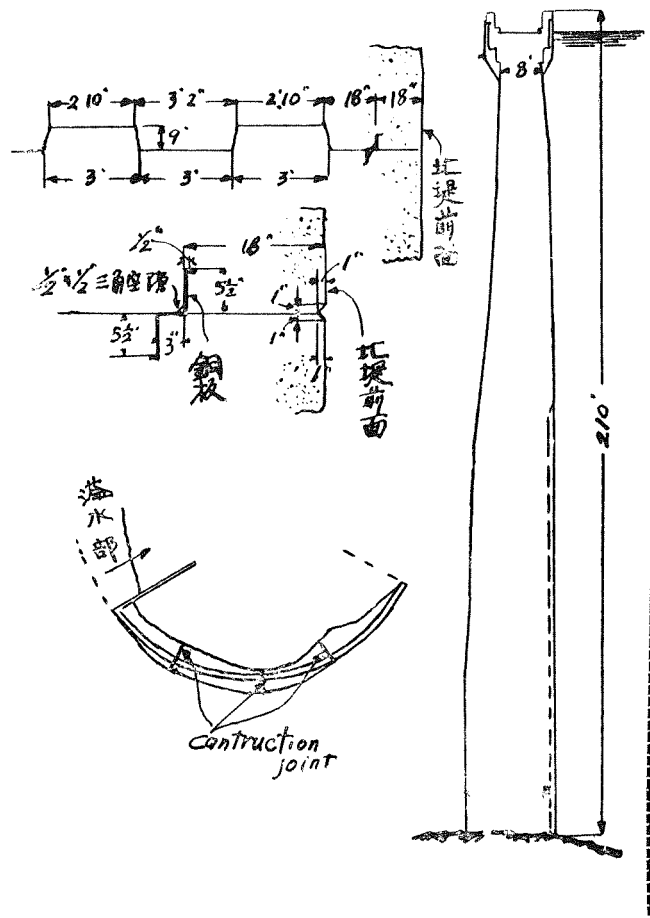


本堰堤の目的は灌漑用水の爲めに造られたもので、之の堰堤によつて従來の水量以外の貯水を使用し得るので更に90,000エーカー(約四萬町歩)の用地を増加し得たものである。又之の堰堤によつて生ずる落差は150呎より70呎に變化するが、その落差と餘水とを利用して發電の設備も施されてゐるが、この貯水池は落差の最大最小に著しき變化があるので、水車の撰定に當つては充分考慮され、能率のよい水車が撰ばれた。

堰堤の設計は Cylinder 氏の公式により elastic Arch の理論に基いて計算され、圖面に示す如き必要の断面となつた。高さは210呎で、頂上の厚さ8呎、底幅22呎、全長326呎であるが、内90呎は溢水堰堤でその高さは93呎である。溢水堰堤は前述の薄き断面ではなく、重力式断面で、左岸に位し、その溢水全水量は毎秒 150,000 立方呎のである。

溢水部堰堤上には9門の tainter gate が据付けられてゐるが、各門の大きさは高さ23呎、中27呎で之れを開閉するには

(14) Sait 河拱堰堤断面とコンストラクションジョイント。



10馬力のモーターをトラックに乗せ移動して引揚げに供してゐる。

名古屋の汎太平洋大博覽會開く

名古屋市は今や人口百萬を突破し市勢に産業の隆昌に、優に三都と併稱せられる所であるが、昭和十二年は名古屋開港三十周年に當り、加ふるに5,700萬圓の巨費を投じたる港湾修築工事はその工を終へんとし、2,500萬圓を以て施行されたる名古屋驛の改装工事完了を始めとして國際觀光ホテル、國際飛行場等も近く竣工豫定にして國際都市としての市容こゝになつたので、帝國領土内及關係外地方は勿

論、汎く太平洋沿岸並に同市と密接なる關係ある諸國の賛同を得て開催される事になつた汎太平洋平和博覽會は、愈去月十五日から開かれた。

會期は三月十五日より五月三十一日まで、

主催は名古屋市で、産業、交通、教育、科學、土木、建築、社會、衛生、觀光、美術工藝に關する一切の出品がある。